

視点

新たな地域医療構想 明確なビジョンを期待

新たな地域医療構想に向けた議論が、厚労省の検討会で進んでいる。現行の地域医療構想は2025年を目標とした構想であるため、その先の2040年を見据えた構想となる。検討会は年内に報告書をまとめ、厚労省は2025年度にガイドラインを策定する予定だ。団塊の世代がすべて75歳以上に達するのが2025年。医療ニーズ増大に対応し効率的な医療提供を行うため、これまでの地域医療構想では、急性期や回復期、慢性期など機能別の病床を過不足なく整備することを目標とした。ただ

急性期病床は未だ過剰とみなされしており、道半ばとの意見もある。2040年を見据えると、人口構造的にさまざまな変化がある。地域の違いも大きい。需要面では、医療・介護の複合ニーズを抱える85歳以上が増大する。地域別に見ると、都会は高齢人口の増加が続くが、過疎地では高齢人口も減少するので、地域の医療ニーズの動向を見極めなければならない。供給面では、人口減少に伴う現役世代の縮小が医療の担い手の確保を困難にする。2000年から2040年にかけて生産年齢人口

は15%減少する見込みだ。人口要因等に基づくニーズの変化に対し、財源を含めて人的資源の制約がかかる供給量をどう確保するかが最大の課題となる。そのためには、在宅医療の推進や介護連携を含む地域の医療提供体制の不断の見直しが必要になる。多くの関係者が、地域の医療提供体制を支えているが、利害が複雑に交錯している。その調整は困難で、同じ方向をめざすには明確なビジョンが求められる。厚労省の検討会には、みんなが一致できるビジョンを期待したい。

社会保険旬報

目次

No.2926 2024年5月1日

視点

新たな地域医療構想

明確なビジョンを期待 3

座標

財政審が「こども・高齢化」を議論

経口摂取推進に向け要件見直しを 4

高血圧症アプリの処方調査結果を発表

ケアマネジメント検討会が初会合 5

インタビュー

令和6年度診療報酬改定

生活から遠い場所の滞在時間を減らし

できるだけ早く生活に近い場所に戻す

厚生労働省保険局医療課長 眞鍋馨 6

レコーダ

医療経済フォーラム・ジャパン主催

第115回定例研修会から

「電子カルテ改革から医療DXの

社会実装へ～医学・医療の原点から」

笠貫宏 12

霞が関と現場の間で⑤

なぜ訪問介護は高収益か

中村秀一 26

潮流

衆院が子育て支援法改正案を可決 27

財務省が医療制度改革で考え方 28

新たな地域医療構想でヒアリング 30

健保連総会で宮永会長を再選 31

新薬品10成分15品目を薬価収載 32

NEWS

全自病会長が新しい地域医療構想で見解

ほか 33

療養の給付の取扱いについて 41

編集室・ワードカプセル 42